



中高生に向けた

大学生によるワークブック

社会課題編



# 君には「社会を変える力」がある



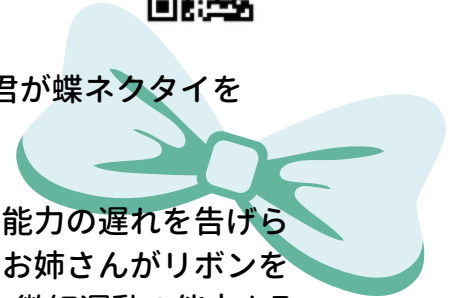
## 12歳の男の子が、里親を探す保護施設の犬猫に、手作りの蝶ネクタイを寄付した話。 ～犬猫が家族を見つけるのを手助けしたい～



米国ニュージャージー州に住む当時12歳のダリウス・ブラウン君が蝶ネクタイを作り始めたきっかけは、彼自身にあった。

ダリウス君は2歳の時、医師から言語能力、理解力、微細運動の能力の遅れを告げられた。ところが、ダリウス君が8歳の時、美容学校に通っていたお姉さんがリボンを作っていた際、ダリウス君は裁縫を手伝っていると、遅れていた微細運動の能力を取り戻した。その後、蝶ネクタイに興味を持ったダリウス君は自ら作るようになり、その完成度は見知らぬ人にどこで売っているのか尋ねられる程だった。

ダリウス君は自身の困りごとや興味から、アクションの幅を広げ、多くの生命をHappyにする活動へと繋げている。

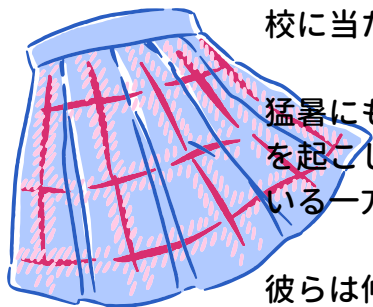


## 男子生徒が集団スカート登校、猛暑の短パン禁止校則を変えた話。



～理不尽な校則を変えたい～

イギリスの都市エクセターにある学校、ISCA アカデミー(同校は日本での中学校に当たる)に通う約30名の男子生徒がスカートを着用し登校した。



猛暑にもかかわらず半ズボンの着用が認められなかったことに対する抗議運動を起こしたのだ。同校の校則では、男子生徒には長ズボンの着用が認められている一方、女子生徒には長ズボンもしくはスカートの着用が認められている。

彼らは仲間を集め、「校則」を変えるためのアクションを起こしたのだ。

自分が「困っている」「おかしい」ということを変えちゃおう！

実は自分が「困っている」「おかしい」ということは、周りや世界にもそう思っている人がいるかもしれない。

自分や周りの人、世界の困りごとを解決するためには、どんなことができるのか考えてみよう。

## 君はどんな社会を創りたいか

動き出すのは、意外と簡単だよ。とりあえず一歩踏み出してみない？

# 中高生に向けた大学生によるワークブック

## 社会課題編

4 QUALITY  
EDUCATION



P4 森垣穂香

#教育 #社会活動家 #子ども

P6 NPO法人ふらいおん

#教育機会 #経済格差 #子ども

5 GENDER  
EQUALITY



P8 京都すまいるプロジェクト

#LGBTQ+ #町づくり #DEI



12 RESPONSIBLE  
CONSUMPTION  
AND PRODUCTION

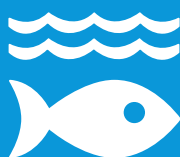


P10 かめおか霧の芸術祭  
#アート #リサイクル #エコバック

---

P12 大崎町  
#自治体 #リサイクル #ごみ分別

14 LIFE BELOW  
WATER



P14 株式会社イノカ  
#環境 #海洋生物 #サンゴ

17 PARTNERSHIPS  
FOR THE GOALS



P16 学生団体So Si Do  
#国際 #未来デザイン #多文化交流

# 19歳の社会活動家 森垣穂香



## フリー・ザ・チルドレン ・ジャパン

「世界は変えられる-子どもがそう信じられる社会に-」というメッセージを掲げているフリー・ザ・チルドレン・ジャパン。

子どもアンバサダーとして関わっていたが、現在はファシリ/インターンとして関わり、子どもだからできない/まだ早いと考えるのではなく、子どもには意見を述べたり参加する権利があるのだということを伝える活動をしている。

## 一般社団法人 ウィルドア



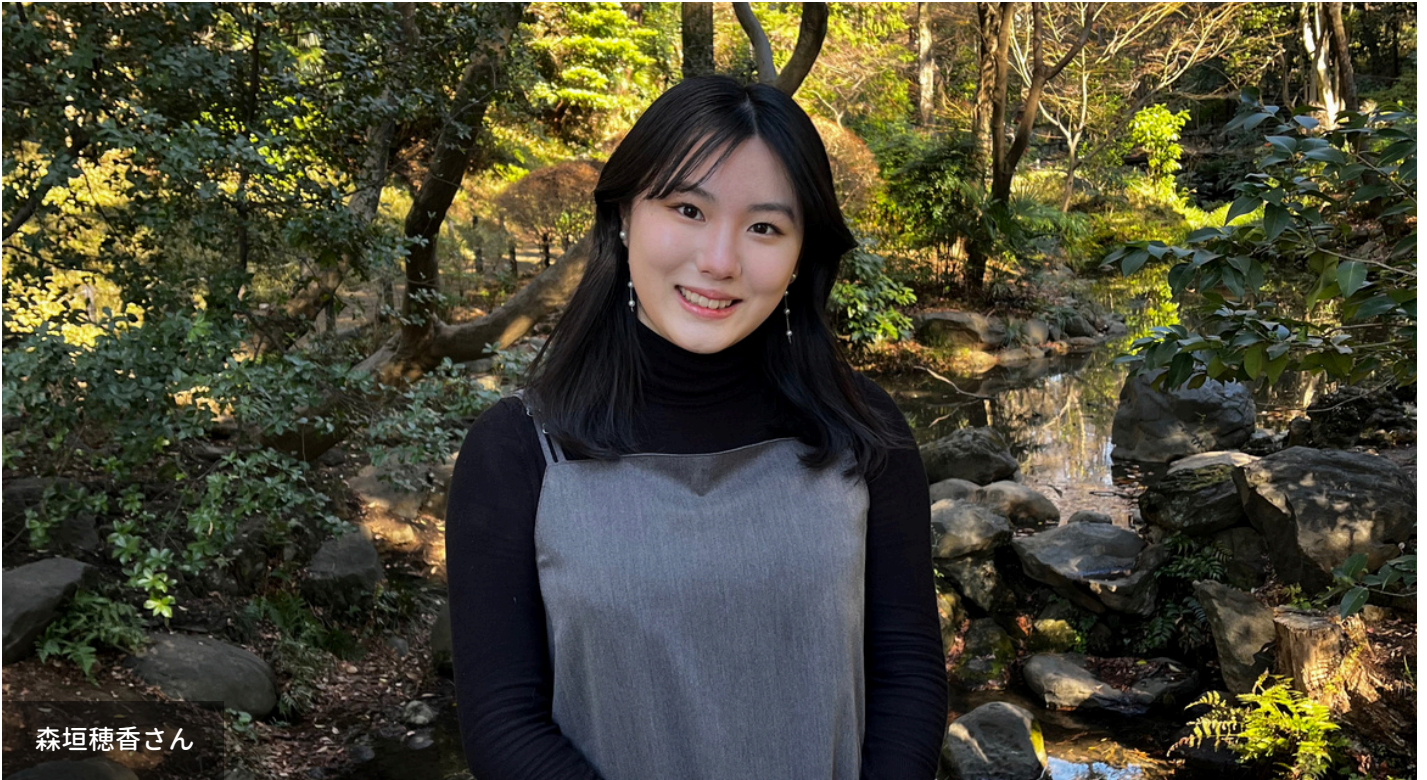
高校生の頃にインターンシップとしてジョインした一般社団法人ウィルドアでは、一人ひとりの高校生が置かれた環境に制限されず「わたしから始まる学び」へ踏み出すための必要な資源・情報を獲得できる総合型オンラインサードプレイス「willdoor Compass」の運用をメインに行っている。

## NPO法人 IHRP



全国の高校生たちが自分の学びたい研究ができる全国高校生異分野融合型研究プログラムを行うNPO法人の運営を行っている。このNPO法人は、世界各国で活躍する大学生が運営しており「社会課題解決のための研究」「異分野融合」「多様な高校生にチャンス」をコンセプトに、高校生同士、高校生と研究者・企業のための“新結合”をもって社会問題へ斬新な解決策を創造することを目標にしている。





森垣穂香さん

### ・活動を始めようと思った理由

高校1年生になるタイミングで新型コロナウイルスが流行し、ステイホームをしている期間が、暇で退屈でした。以前から社会問題に関心があったのですが、社会を変えることなんて私にはできないし、社会問題なんて難しそうだと思っていました。そこで、家庭教師の方にそれを相談したところ、大学生などの中には、社会問題について自分の意見を持って活動したり、インスタグラムに発信したりしている人がいるということを知って、SNSなどで調べて面白そうだと思いました。そこで、SNSに10代は社会問題についてどう思っているかということやどう見えているかということを書いたブログのようにどんどん書いて載せたことがきっかけです。

### ・やりがいを感じる時

教育に関する活動がメインなので、色々な子どもたちと関わっているときに一番やりがいを感じます。大変なことや難しいこともたくさんあり、心が折れそうになることもあります。現場に出て子どもたちと関わることで、すごくエネルギーを貰えます。

私の中で心に残っていることは、合宿最後の子どもたちとお別れのときに、「普段は自分に自信がないことが多いけど、この合宿にいたときはスタッフの人たちが自分のことを信じてく



### 取材者の感想

高校生の頃から社会問題に関心を持ち、さらにそれに対する意見をSNSで発信していたという、行動力と意識の高さに感銘を受けました。これからもっと子どもたちにとって、意見を述べたり行動を起こしたりしやすい社会になれば良いと思います。そして、私自身も教育に関わる身として、そのサポートをしたいと思いました。

中村 光咲

### ・中学生に向けて一言

自分のやりたいことや好きなことを誰かに言ったり、それに向かって何か一生懸命頑張ったりすることとは、恥ずかしかったり、できるか不安だったりなど、色々な気持ちに溢れると思います。しかし、自分のやりたいことや好きなことはすごく大切にしたいし、何より自分を一番信じてあげることが大切だと思うので、やりたいことに向かって一生懸命頑張ってください。

### ・今後の取り組み

私が最も関心を持っていることは幼児教育なので、今は中学生と関わる人が多いのですが、後は幼児の発達に関わる研究をしていきたいと思っています。赤ちゃんとお父さん・お母さんの関わりは、子どもの発達に關してすごく大きいものだと思うので、家庭の中で幼児がどのように発達していくのかということを中心に発達に軸を寄せて何か考えていきたいと思っています。

れて一生懸命応援してくれたから、自分にも何かできるんじゃないかと少し頑張ってみようかなというように勇気を貰えた。」と言われたことが嬉しかったです。そういった機会を色々な子どもたちに与えられると良いなと思い、その瞬間すごく元気が出ました。そういうようなことがあると、やる気が出るというか、モチベーションが上がります。



# 社会を翔ける教育の翼 NPO法人ふらいおん



## まだまだ伸ばせる子供たちへ 教育機会を与える

1つの無料塾開校から始まり、今では全国に向けた無料塾の運営支援を行っている。「すべての子どもたちに多様なまなびを届ける」をスローガンに掲げ、経済格差が教育格差に繋がり、将来的には貧困の連鎖に繋がるという現状を改善したり、学びたいという気持ちがある全ての子どもたちが環境の制限なく学ぶことができる環境を提供したりすることを目的として勉強や、習い事、様々な体験活動ができるような無料塾事業及び運営支援を行う。

## 無料塾事業



日本では、「家庭の経済力の差が学校外での学習量の差に繋がっている」ということが一つの理由で、先進国の中でもかなり教育格差が大きくなっている。この現状に対し、定期的に学習支援や体験活動を行い、一年間で延べ2000の子どもに多様なまなびを届けている。現在、大阪・三重・兵庫・東京・愛知の5地域で計10校舎を開校中。

## その他の活動



より多くの子どもたちに多様な学びを届けるため、2023年6月から「全国無料塾サポートセンター」を立ち上げた。無料塾の運営者に対し、物資や広報支援、さらにアンケート調査を行い、無料塾の現状をデータ化している。無料塾の垣根を越えた、夏祭りや秋の自然体験合宿なども行い、無料塾間の交流を深める活動も行っている。





左から、横山さん、野田さん、溝口さん



すべての子供たちに  
教育の機会を

・活動を始めようと思った理由

横山さん 1番のきっかけは、中学生のときに不登校だったことです。中学3年生のとき、イベントインターンをし、そこで居場所を見つけたことから、居場所を変えることに着目し、不登校の子にとっての居場所作りに取り組むようになりました。

溝口さん きっかけは代表の人と出会ったことです。子どもが得意だったわけではないですが、子どもたちが学びを正しく捉えられないことに敏感で、無料塾のような社会教育の場で、大人と出会いながら勉強もしつつ過ごすことが子どもにとって良いのではないかと思い、活動に参加しました。

・やりがいを感じる時

横山さん 子どもたちが楽しんでいる姿を見るときです。

溝口さん 子どもたちが今したいことを自由にしたり、大人が思いつかないようなことを純粋にしたりする姿を見るときです。

・今後の取り組み

横山さん 1番大きな目標は全国に無料塾を広げることです。

溝口さん 子どもたちが誰でも無料塾に通えるように47都道府県や市、区などに広げたいです。それから、無料塾がどれだけ教育課題を解決するのかというのを証明して広めていったり、どんな教育を届けていけば子どもたちの成長を促せるのかをデータ化したりしていきたいです。

・中高生に向けて一言

横山さん SDGsと聞くと難しそうだけど、意外とSDGsで掲げられている課題は身の回りに関連することのように感じられると思います。SDGsは難しそうと言って敬遠するのではなく、身の回りの小さな課題を解決することからでも取り組むことが大事です。

溝口さん 世界に興味を持つことも大事だけど、自分の身の回りの自分の興味のある課題に取り組むことも素敵なことだと思います。本当に自分がやりたいと思うことを、やって楽しいと思いがちで、ってほしいなと思います。

野田さん やって見たらなんとかなるので、何事もやってみたらやってみることが大事だと思います。



取材者の感想

私と同年代なのに、こんなにも色々なことを考えて行動されていてすごく尊敬しました。これからもっと多くの子どもたちに無料塾という取り組みが届けばいいなと思いました。

中村 光咲

# ひとも、まちも、えがお。 京都すまいるプロジェクト



## 京都の大学生が LGBTQ+問題に取り組む

学生を中心とした京都のまちづくり団体。京都の問題点を様々な角度から捉え、地域を笑顔にするために活動をしている。

京都市内にある「WaGaYa」を活動拠点にし、立命館大学・同志社大学・関西学院大学・龍谷大学・京都府立大学など近畿圏の大学に通っている学生が総勢28人所属しており、現在は6つのプロジェクトを進行している。

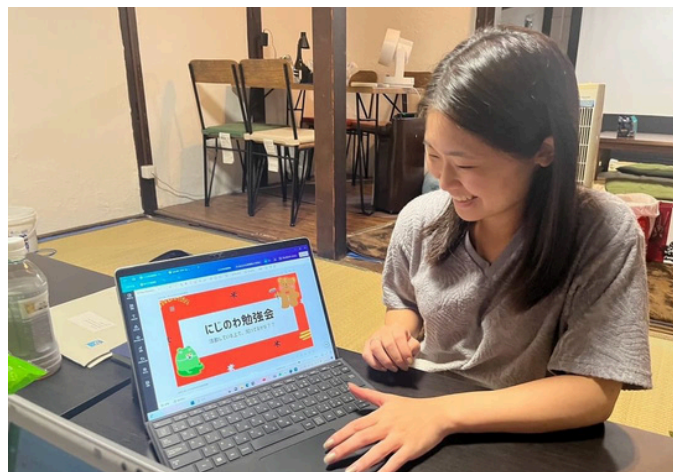
## すまプロにじのわ



LGBTQ+を題材にLGBTQ+への理解を深め、社会に広げていく活動をワークショップを通して行っている。主な活動内容は、映画祭の企画・運営、LGBTQ+に関するワークショップを3ヶ月に1回ほどの開催、SNSでの広報活動、勉強会の開催、外部のイベントとして「レインボーパレード」に参加している。

## すまプロクィア映画祭

LGBTQ+を題材にした映画を鑑賞し、映画についての意見交換をする。また、LGBTQ+の問題点や課題点についての付箋ワークショップや参加者との交流会を行なっている。

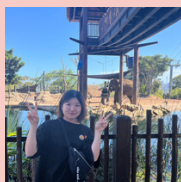






左から福本さん、名波さん、西村さん

## 京都すまいるプロジェクト



### 取材の感想

個性を認め合え、誰もが生きやすい社会を作るという目標のもと京都の大学生が定期的にイベントで0円食堂や無料熱カクテルなど楽しそうにしている素敵だなと思いました！（石田）

まだ多様性の尊重が難しい中、ダイバーシティな社会にしていくなために様々なことに取り組まれていて、同じ大学生としてとても感じました。すまプロにじのわの取り組みがさらに世の中に広まり、多くの人に知ってもらいたいと思いました！（山本）

（写真左から）石田渚、山本楓子

西村さん Instagramで活動を知り、中学生の時にカナダに滞在していて、海外でのジェンダーダイバーシティの取り組みを知り発信したいという想いで参加しました。

福本さん はじめは友人が「京都すまいるプロジェクト」にある街作りの団体に参加していたことをきっかけに入会し、その後大学の授業でジェンダーについて学んだことをきっかけに関心を持ち本プロジェクトに参加しました。

名波さん 高校生の時にアニメをきっかけにLGBTQ+に関心を持ち、独学でLGBTQ+について学び、HPで活動を知り、参加することになりました。

・プロジェクトへの想い  
このプロジェクトを通して、LGBTQ+の理解を深めてもらったり、関心を持ってもらい、誰もが生きやすい社会を広めたいです。また、当事者や関心のある人たちにも落ち着けたり、励ましたりできる居場所を作りたいという想いで活動をしています。

西村さん 悩みを抱えている人がいたら、自分だけの問題ではないということを伝えたいです。

福本さん 自分のことは責めないで、中高生で言いづらい環境に対して勇気づけたいです。

名波さん 「LGBTQ+」もっと身近なものであって恥じらう必要はありません。やりたいことがあれば、自分から動いていくことが大切です。

・最後に、中高生に向けて一言  
名波さん 自分がやりたいと思ったことを実現することができることです。福本さん 様々なことに挑戦することができて、いろんな人と繋がりを持つことが出来ることです。西村さん 新しい人たちに会えることが出来ることです。

・今後の活動について

活動拠点である「Wagaya」で、飲食店を運営を考えています。他にも毎年参加している「レインボーパレード」で私たちすまプロにじのわの展覧もやっていき、いつかはすまプロにじのわを独立させることを視野に入れています。

# 亀岡市とアートをつなぐ 『かめおか霧の芸術祭』



12 RESPONSIBLE  
CONSUMPTION  
AND PRODUCTION



## KAMEOKA FLY BAG

### かめおか霧の芸術祭

まちの周辺に芸術系の学校が多く、アーティストが多く暮らす亀岡市。亀岡市役所が事務局となり、カフェとして改修した古民家を拠点に、アーティストだけでなく農家や学生など多くの人々とともに、アートを通じて暮らしを耕す様々な取り組みを年間を通じて実施している。

### KAMEOKA FLY BAG



亀岡市は都心部から好アクセスで豊かな自然に囲まれており、パラグライダーが盛んな地域。「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をしていた亀岡市は、廃棄予定のパラグライダー生地をアーティストとともに巨大なエコバッグにしてクレーンで吊り下げ、市民に環境施策をPRするなど、楽しくSDGsに取り組んでいる。

### その他の活動



かめおか霧の芸術祭では作品展示以外にも、五感で楽しむ数多くのワークショップを年間を通じて開催している。





岡田さん

亀岡市 生涯学習部 文化国際課



## 取材者の感想

パラグライダーとSDGsを掛け合わせてエコバックを作る発想が他にはない独創性を感じた。また現在ビニール袋が有料になっている点や大きな一つのパラグライダーから個々が好きな柄を選んで作るため独自性のある自分だけのものを持てる点においても魅力を感じた。

人知遥

・そのプロジェクトはその後どうなりましたか？  
このワークショップで生まれたアイデアは「HOZUBAG」として発展し、ファッションブランドやアーティストが共同で設立した会社により国内外で販売されています。環境保護だけでなく、職人やデザイナーの雇用創出、地域経済の活性化にも貢献する循環型の仕組みとなり、持続可能な取り組みとして発展しています。

・活動を始めようと思った理由は？  
亀岡市は「プラスチックごみゼロ宣言」を掲げ、その一環としてマイバッグの普及を楽しく進めたいと考えました。そこで、アーティストと協力し、廃棄予定のパラグライダー生地を活用したエコバッグ作りのワークショップを開催しました。参加者が自分で好きな形に切り出し、オリジナルのバッグを作ること、環境問題を身近に感じてもらうことを目的としました。

・中高生に向けて一言  
SDGsというと難しく感じるかもしれませんが、亀岡市ではアートを活用し、楽しく取り組める工夫をしています。リサイクルやアップサイクルは「創造」の一環です。まずは「楽しむこと」から始め、小さなアクションを積み重ねていきましょう。環境活動は、義務ではなく、自分なりの方法で楽しみながら関われるものです。

・どのような方が「FLY BAG プロジェクト」に参加しましたか？  
このプロジェクトには中高生、大学生、アーティスト、デザイナーなど、多様な人が参加しました。

・今後の目標は？  
「かめおか霧の芸術祭」は、農業・環境・教育など様々な分野に文化芸術の力を活かし、魅力あるまちづくりを進めています。具体的な目標を一つに定めず、環境保護だけでなく、地域特産品や伝統文化との融合を模索しながら、幅広く活動を展開していきます。

# リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ 大崎町



12 RESPONSIBLE  
CONSUMPTION  
AND PRODUCTION



## 大崎町について

大崎町は鹿児島県東南部に位置し、人口約1万2千人の町である。「リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ」という未来の大崎町ビジョンを掲げ、まちづくりに取り組んでおり、全国自治体の平均的なリサイクル率が約20%である中、本町のリサイクル率は80%を超え、これまで14回の日本一を達成している町である。

## リサイクルシステム



本町のリサイクルシステムとは、焼却炉に頼らない低コストで資源循環型の廃棄物処理システムである。

この仕組みを支えるのは住民組織である大崎町衛生自治会である。同会は地域のコミュニティ活動の基礎単位となっており、このコミュニティを軸に、「ごみ分別」という新たな課題に取り組み、収集日における立ち合い

や、分別指導など、町全体の27品目分別の収集体制を支えています。

特に、子どもたちの環境教育に力を入れており、学校や地域でのリサイクル活動を通じて、次世代への意識啓発を行っている。大崎町は子どもたちを含む全住民が一丸となってリサイクル活動を推進し、持続可能な社会の実現に向けて努力している。







大崎町にてリサイクルに取り組む皆様



・町のリサイクル推進のきっかけ  
平成20年当時、埋立処分場の残余年数が逼迫していました。そこで、町は焼却炉や新たな処分場の建設ではなく、「混ぜればごみ、分ければ資源」を合言葉に、細かな分別によるごみの減量化に取り組むことを決めました。これにより、処分場の延命化を図り、持続可能なごみ処理の仕組みを構築しました。

・取り組みの発展について  
本町の取組はジャパンSDGsアワード内閣官房長官賞の受賞やSDGs未来都市の選定など、高く評価されています。地域の課題解決にとどまらず、世界の課題にも貢献するため、官民連携の推進事業体として（一社）大崎町SDGs推進協議会を設立し、持続可能な未来をつくる事業を進めています。



## 取材者の感想

大崎町の、官民が一体となり、経済的なメリットを生み出しながら環境問題に取り組む姿勢が印象的でした。ごみを「資源」と捉え、世界にも貢献しようとする姿勢は、学ぶべき点が多く、持続可能な社会を実現するために、自分たちに何ができるかを改めて考えさせられる取材でした。

中島 幸乃

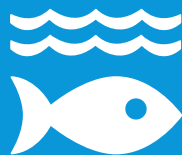
・この取り組みに込めた想い  
平成20年からインドネシアの複数地域でリサイクル技術の国際協力を進め、一定の成果が出ています。他国からも技術協力の要請があり、大崎町の取組が世界の課題解決に貢献できると実感しています。私たちは「持続可能な社会を次世代に残したい」という想いのもと、官民連携で事業を展開し、世界に広がるリサイクルの未来を支えていきたいと考えています。

・この取り組みの価値について  
本町のリサイクルの目的は埋立ごみの減量化と処分場の延命で、今後40～50年は使用可能です。分別によりごみが資源となり、売却益は1億5千万円以上に。さらに行政コスト削減や新たな仕事創出など多くの効果が生まれています。これからも発展させていきたいです。



人と自然が、100年先も共生できる世界をつくる

# 株式会社イノカ



14

LIFE BELOW  
WATER



## 好きな自然を見続ける

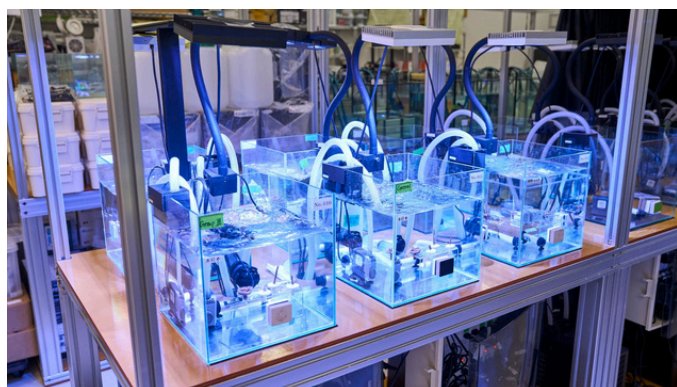
自然を愛し、好奇心に基づいて飼育研究を行うアクアリストの力とIoT・AI技術を組み合わせることで、任意の生態圏を水槽内に再現する『環境移送技術®』の研究開発を行っているイノカ。「自分たちが好きな自然をみつづける。」をフィロソフィーとし、環境移送技術を用いて人類の選択肢を増やし、人も自然も栄える世界をつくることを目指している。

## リアルな生態系を見せる 「環境移送技術」とは



イノカでは環境移送技術®を活用したリアルな生態系を見せる教育事業、そして臨海部にかかわらずとも様々な海洋研究を可能にする海洋研究事業を展開している。サンゴに実際に触ってもらい、自分の五感をつかって生き物の面白さを知ってもらうイベントや、研究開発ではサンゴに優しい日焼け止めの開発などを行っている。

水質(30以上の微量元素の溶存濃度)をはじめ、水温・水流・照明環境・微生物を含んだ様々な生物の関係など、多岐に渡るパラメータのバランスを取りながら、自社開発のIoTデバイスを用いて実際の自然環境と同期させ、特定地域の生態系を自然に限りなく近い状態で水槽内に再現するイノカ独自の技術。







イノカの皆様



## 取材者の感想

私は、海が大好きでイノカでインターンをしています。「生き物が好き」という情熱と最先端の研究が新しい時代のサンゴ保全を可能にしています。

ここでの経験を通じて、私も海や生態系を守るために何ができるのかを深く考えたいと思いました。

丸山聖可

## ・プロジェクトに参加したきっかけ

イノカは、2018年、宇都宮の工場で職人として働きながら趣味でサンゴの飼育を水槽内でしていたCAOの増田と、東京大学での研究をしていた生き物好きのCNOの高倉の出会いから始まりました。

## ・イノカの「ここがすごい」と思うポイント

イノカは「環境移送技術」により、沖縄の海と同じサンゴ礁生態系を東京に再現しました。これにより、絶滅の危機にあるサンゴの研究を「いつでもどこでも」行えるようになり、本来100月に産卵するサンゴを健康的な環境のもと2月に産卵させることに成功。時期をコントロールした人工産卵は世界初であり、サンゴ保護の新たな可能性を切り開いています。

## ・プロジェクトへの想い

イノカの「環境移送技術」を支えているのは、水生生物を飼育する「アクアリスト」と呼ばれる人々の技術と生き物にかける情熱です。

彼らの技術・想いは、もしかしたら地球を救うことができるかもしれない！そんな仮説をもとに、イノカは誕生しました。生き物好きの技術と情熱をベースに、私たちは地球課題を解決するための技術開発を目指しています。

## ・プロジェクトでのやりがい

イノカはスキルや経験ではなく「生き物が好き」という思いを持った人が集まった団体です。生態園エンジニア®のように生き物が好きすぎて自宅で飼育してしまう人もいれば、生き物が大好きで研究を行ってきた人、自分たちのような生き物好きを増やしたい子ども達へ教育活動を行っている人など、さまざまな方法で全員が生き物と関わっています。自分たちの手で自然を守るきっかけをつくったぞと実感する時、生き物好きが集まり最高のイベントを作れた時、そんな時にやりがいを感じています。



日本の未来を担う若者が世界中に種をまき  
未来をデザインする

# 学生団体So Si Do



17

PARTNERSHIPS  
FOR THE GOALS



## 「種を蒔く」

利害関係のない状態で関係を築くことができれば、何十年後かにそれぞれがその国を背負い、何らかのきっかけで協力することができるのではないか。そのため、私たちは日本と現地の学生を対象に社会課題解決のプランニングコンテストを実施し、国境を越えた人たちが共に未来をデザインすることを構想している。私たちは、ビジョンとして「未来の日本を担う若者が世界中に種をまき未来をデザインする」を掲げ、

「種を蒔く」を意味する"sow seeds"から「ソシド」という名前を付けた。

## 社会実装まで目指す



「100年後もフィジーが幸福度ランキング一位であるには」というテーマのもと、2023年にフィジー共和国にてビジコンを開催。現地にて日本人学生とフィジー現地学生がグループになり、プランを考えた。審査員に評価されたアイディアは活動資金とサポーターが与えられ、現地にて課題解決に取り組んでいるソーシャルベンチャーと並走し、社会実装まで目指す。

## So Si Doについて

大阪・関西万博 TEAM EXPO2025 次世代共創リーダー育成プロジェクト共創チャレンジユース団体の一環で2022年9月に立ち上げた。日本・世界の未来を担う次世代リーダーが世界中に繋がりを作り、それぞれが実際に活躍する頃にふとしたきっかけでもう一度協力し合える関係を期待している。昨年度はフィジーで開催し、今年度も引き続き開催予定です。同時に今年度からはアフリカ地域に横展開して行く予定だ。







平松倫太郎さん



取材者の感想

取材を通じて、挑戦することの大切さを実感しました。話を聞いていると、「まずやってみる」というシンプルだけれど力強い姿勢が随所に感じられ、実際に行動に移すことの重要性を学びました。私自身も、目の前で取りこぼしていることはないか、機会を見失っていないか、改めて考えようと思います。

白羽優之介

・プロジェクト発足のきっかけ  
高校二年生の頃、フィリピンでボランティア活動に参加したことをきっかけに、国際的な取り組みに興味を抱いていました。その後、アフリカのザンビアに赴いた際に、貧困問題を解決するためには「自ら収入を生み出す仕組みをつくる」ことが必要だと感じ、起業家を生み出すムーブメントを起こせばいいんじゃないかと考えました。この考えがきっかけとなり、SoSiDo発足に繋がって行きます。

・プロジェクトでのやりがい  
日本とフィジールの学生が繋がり、起業を目指す、という目的の中で、日本の学生は消極的である一方で、フィジールの学生はかなりオープンで積極的でした。そういった性質の違いを、一つのプロジェクトという同じ壁にぶつかり、ともに乗り越えることで、良い関係性を構築していく時間を間近で見る事が出来ました。その瞬間に立ち会えた際に、大きな達成感を感じることが出来ました。

・今後の取り組み  
最近では、海外で活躍する日本人の生き方やキャリアに興味を持つようになりました。特に、移民起業家や日系企業の海外進出に関心を抱き、その実態や課題を深く知りたいと思っています。その一環として、インタビュー形式のポッドキャストの作成に挑戦し、実際に海外で活躍している日本人の話を聞く機会を増やしています。これを通じて、異なる環境で挑戦する人々の考え方や価値観を学び、多くの人に共有できるようなコンテンツを作っていきたいと考えています。

・中高生に向けて一言  
目の前にあるチャンスを逃さず、浅くてもいいから拾っていくことが重要だと思います。学生という時間は短く、限られているので、時には悩むこともあるかもしれませんが、直観に従って進んでみることも大切です。後から振り返ると、過去の小さな挑戦の数々が線でつながり、道筋が見えてきます。だからこそ、皆さんには迷わず挑戦してほしいと思います。



## 例

# 調べ学習の達人になろう！

みんなで1つのテーマについて検索エンジン(例：Google、safari)でリサーチし、検索結果やそこから考えたことをまとめて発表してみよう！

リサーチする方法は色々ありますよね。今回は、その中でも皆さんに身近で、手軽に世界中の情報を集められる検索エンジンを使って見ましょう！



インタビュー



本・論文



新聞：雑誌

検索エンジン



AI・チャットボット

テーマの決め方：社会課題、時事問題、住んでいる町、将来のキャリア・職業など普段から気になっていることに関する「問い」を立てよう。例)「なぜ～なのか。」「どのようにすれば～なるのか。」3つのWebページを使用して、リサーチ結果をまとめてみよう！

## テーマ：マイクロプラスチックは環境にどう悪影響なのか。

### 出典

その情報が本当に正しい？  
誰が出しているか分からない「匿名」の情報には注意しよう！

マイクロプラスチックとは、海洋プラスチックごみの中でも5mm未満の微細なプラスチックごみのこと。いろいろなプラスチック製品から発生しているといわれており、人工芝や衣料品等の合成繊維も・・・

環境省HP「一般向けマイクロプラスチック発生抑制・流出抑制対策リーフレット」

マイクロプラスチックは、海中の有害化学物質を取り込みやすく、有害化学物質の運び屋となって海に汚染が広がってしまう。海の生物がエサと間違えてマイクロプラスチックを食べてしまうと・・・

千葉商科大学「海が汚染され、海の生物も人も危ない！マイクロプラスチック汚染問題とは」

マイクロプラスチックがサンゴに取り込まれ、サンゴと共生関係にある褐虫藻（かっちゅうそう）も減る。褐虫藻はサンゴが代謝した二酸化炭素で光合成を行い、サンゴの栄養である有機物を作り出す・・・

日本財団ジャーナル「【増え続ける海洋ごみ】マイクロプラスチックが人体に与える影響は？東京大学教授に問う」

## 考察 リサーチ結果について考えたことを書いてみよう！

マイクロプラスチックは、人の目に見えないものもあり、対策が難しいと思った。対策をすることは難しいようで、一度海に流出してしまうと、回収が難しい。そのため、海に流出する前に、各個人、企業、国がマイクロプラスチックを発生させない、または流出させない対策をすべきだと思った・・・

## 発表 なぜ、どこからその情報を選んだのかを説明してみよう！

他の人のリサーチ結果を聞いて、感じたことを書いてみよう！

〇〇さんの発表で、「対策」について検索をしていたのが印象的だった。すでに行われている対策を調べることによって、この問題に対する現状の課題が把握できると思った。また、全体の発表を聞いてきて、現状を詳しく調べている人もいれば、解決策を詳しく調べている人もいて・・・

# 調べ学習の達人になろう！ 名前：

みんなで1つのテーマについて検索エンジン(例：Google、safari)でリサーチし、検索結果やそこから考えたことをまとめて発表してみよう！

リサーチする方法は色々ありますよね。今回は、その中でも皆さんに身近で、手軽に世界中の情報を集められる検索エンジンを使って見ましょう！



インタビュー



本・論文



新聞：雑誌

検索エンジン



AI・チャットボット

テーマの決め方：社会課題、時事問題、住んでいる町、将来のキャリア・職業など普段から気になっていることに関する「問い」を立てよう。例)「なぜ～なのか。」「どのようにすれば～なるのか。」3つのWebページを使用して、リサーチ結果をまとめてみよう！

テーマ： \_\_\_\_\_

出典

その情報が本当に正しい？  
誰が出しているか分からない「匿名」の情報には注意しよう！

**考察** リサーチ結果について考えたことを書いてみよう！

**発表** なぜ、どこからその情報を選んだのかを説明してみよう！

他の人のリサーチ結果を聞いて、感じたことを書いてみよう！



# 課題設定シート

名前:

このシートは、あなたがこれから課題を設定することが目的です。もやっとなら考え始めてみよう！

## STEP 1

自分の身の回りやNEWSなどで「モヤモヤしていること」を挙げてみよう。

## STEP 2

「モヤモヤしていること」を 5W1H で具体化してみよう。

例) 誰がどう困っているのか。(Who, Where, When, What, Which, How)

## STEP 3

「調べ学習」の方法を参考にして、興味があることに関する、社会の現状について調べてみよう。

## 向き合いたい課題

「自分がほっておけない」ことを課題として設定しよう。

「なぜ～なのか。」「どのようにすれば～できるのか。」など疑問形になっていると、考えやすいよ！

## ボトルネック

設定した課題の最も根本的な原因は何か考えよう。

# 探究学習総括シート

名前：

## 最初の課題設定



課題設定をブラッシュアップするためのアクション

## 最終的な課題設定



## 解決策として実施したアクション

## 振り返り・感想



# アクションを起こそう！

準備が万全でないと動き出せない？そんなことはありません。アクションを起こしてみないと分からないこともあります。まずは一歩踏み出してみましょう！

アクションには、「課題設定アクション」と「解決アクション」の2種類があります。課題設定ができれば、「アクションシート」を利用して、まずは「課題設定アクション」を実践してみよう。

## 課題検証アクション

このアクションの目的は課題を検証することで、課題をブラッシュアップ・明確化すること。

※下記はあくまで参考例。別の方法を実践しても良い。

### 1. アンケートをする

対象者：課題の当事者、課題に取り組んでいる人、一般人(家族、友人、学校)

方法：紙媒体、GoogleForm



### 2. インタビューをする

対象者：課題の当事者、課題に取り組んでいる人、一般人(家族、友人、学校)

方法：対面、オンライン(電話、zoom)



## 解決アクション

このアクションの目的は設定した課題を解決すること。課題を完全に解消するものではなくとも、「自分には何ができるか」を考えてみよう。

※下記はあくまで参考例。別の方法を実践しても良い。

### 1. 生み出す

行動例：地元の特産品を使ったスイーツを作ってみる  
新しい農具を開発してみる  
子供から高齢者まで楽しめるゲームを創る



### 2. 届ける

行動例：LGBTQ+についての勉強会を開く  
課題の認知拡大に向け、チラシを作成・配布する  
SNSで発信をしてみる



2種類のアクションを繰り返すことで、自分が解決したいことがより明確になり、自分は「何をしたいのか」が見えてきます。

課題設定・解決策の仮説検証を繰り返し行おう！

# アクションシート

名前：

記入日： / ~ /

## Plan 1.なぜその行動をするのか2.具体的な行動(いつまでに何をするのか)を書いてみよう。

1.行動の目的：

2.計画：



## Do 1.実際にできた行動の詳細 2.その行動をした結果のどのような結果が得られたのかを書こう。

1.行動(実際にしたこと)：

2.結果：



## Check 行動・結果を分析し、上手くいったことと上手くいかなかったことを書いてみよう。

良かったこと：

もう少しだったこと：



## Action Checkのもう少しだったことの中で次の行動ではどう改善するかを書き、具体的なネクストアクションを考えよう。

改善点：

次にすべきこと：



# 探究学習スケジュールの雛形

(先生向け)

今回は、探究学習の期間を「3ヶ月」と想定し、スケジュールの雛形を用意しました。ワークシートご使用の際に参考にいただければと思います。

## 1. 調べ学習

授業回数：1回 期間：1週間

使用シート：探究学習の導入コラム(1ページ) / 調べ学習シート(18.19ページ)

## 2. 課題設定

授業回数：1回 期間：1週間

使用シート：事例集(2ページ～17ページ) / 課題設定シート(20ページ)

## 3. 課題設定のブラッシュアップ

授業回数：3回 期間：3週間

使用シート：探究学習総括シート(21ページ) / 事例集(2ページ～17ページ) / アクションを起こそう！(22ページ) / アクションシート(23ページ)

課題設定のためにインタビューやアンケートなどのアクションを行う。

## 4. アクション計画・実行 (5. 複数回のアクションを行う)

授業回数：6回 期間：6週間

(計画1週間、実行2週間で2回のアクションが行える想定)

使用シート：事例集(2ページ～17ページ) / アクションを起こそう！(22ページ) / アクションシート(23ページ)

## 6. 探究学習の振り返り

授業回数：1回 期間：1週間

探究学習全体を振り返り、発表会をしたり、感想共有をする。

使用シート：探究学習総括シート(21ページ)

3～5を繰り返し行うことで、課題に対する効果的なアクションに辿り着き、学びが深まります。

## ご使用いただける資料

- ・ 探究学習の導入コラム(1ページ)
- ・ 事例集(2ページ～17ページ)
- ・ 調べ学習の達人になろう！(18.19ページ)
- ・ 課題設定シート(20ページ)
- ・ 探究学習総括シート(21ページ)
- ・ アクションを起こそう！(22ページ)
- ・ アクションシート(23ページ)

中高生に向けた大学生によるワークブック  
社会課題編

---

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行・制作 | 一般社団法人アンカー<br>〒103-0022<br>東京都中央区日本橋室町1丁目12-3 Kanal Platz 3 階<br>mail: info@anchor-project.org |
| 監修    | 横田 浩一<br>一般社団法人アンカー共同代表理事<br>株式会社横田アソシエイツ代表取締役<br>慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授                      |





Instagram



Facebook



YouTube



X (Twitter)



HP

Sustainability Awards  
for Students by Students

#SASS

大学生による中高生のための SDGs / サステナビリティワード